

教育支援だよりは、先生方と支援教育に関する「こんなこと良かった!」「役に立った!」といった情報共有を目的に発行しています。瀬谷支援学校の取り組みを多くの方に知ってもらうためのおたよりです。

## ～まっちゃんの今月のつづき～ 「なんのために学ぶのか?」

これって究極の問いですね。学ぶ目的は人それぞれ。

「知りたくて、身につけたくて」という『積極派』から、「知らないと困るから、仕事で必要だから」という『ねばならない派』まで、さまざまだと思います。

子どもたちの学習の中で登場することの多い「文字」と「数」の学習。

この文字（漢字）が読み書きできることで何が可能になるのか?

この計算ができることが、どんな場面で役に立つのか?

つまり、読み書きや計算ができることが目標ではなく、読み書きや計算ができるようになることで、**その子の生活の中でどんな世界が広がっていくのか**を考えて取り組むことが、本来の目的ではないかと思っています。

だからこそ、私たちは**そこを意識しながら学習内容を提供していく必要がある**のでした。（個別教育計画の目標もそこですよ!）

もちろん「学ぶこと=何かの役に立つ」ことばかりではないです。

学ぶ時間が、集中力や持続力、意欲、興味関心、好奇心を育てることもあります。

昔、日常生活におよそ役に立つとは思えない数学の授業は、論理的な思考や、物事を順序立てて考える力を育てるんだよ、と教えてくれた先生がいました。

今、目の前にいる子どもたちにとって、この学習はどこにつながっていくのか? そのためのヒントがアセスメントの中に隠されています。時間に追われる毎日ですが、ふとそんなことを考える時間も大事にしていけたら、と思うのでした。 （教育支援チーム まつしま）

## 本校で用いられているアセスメントを紹介します

### 【小学部】「太田ステージ」と「NCプログラム」

担当する児童の発達段階を評価し、指導に役立てるために用いています。

「太田ステージ」は短時間でできますが、認知以外の発達段階を評価することが難しいです。

「NCプログラム」は運動面など認知以外の発達段階もわかりますが施行に時間がかかります。

そこで、小学部では「太田ステージ」は1、3、5年の年度初めに取り、授業の実践に役立てています。

「NCプログラム」は2、4、6年の年度終わりに取り、次年度への引継ぎと個別教育計画を立てるのに活用しています。

※各アセスメントに必要な道具や記録用紙のセットを用意し、いつでも評価できるようにしています。

### 【中学部】「太田ステージ」

検査や内容が生徒の発達年齢に即しているため、実施しています。

入学時と毎年1月にアセスメントを行い、個別教育計画作成や国語数学などの学習指導に活かしています。

「太田ステージ」の結果に基づいて、担任同士や専門職と一緒に一人ひとりの生徒に必要な学習内容や支援方法を考えたり、校内研究でステージに合わせた支援を学び合ったりするなど、アセスメントを活かす土台ができつつあります。

### 【高等部】「社会生活能力チェックシート」

「S-M社会生活能力検査」を参考にした「社会生活チェックシート」を活用しています。

身辺自立、移動、作業、コミュニケーション、集団参加、自己統制、のそれぞれの場面ごとに○×△をつけ、生徒のできる・難しいを見ていきます。

今年度の校内研究で、現在の生徒の実態により合うようにさらに改良する予定です。

### 【大和東分教室】「MI（多重知能）」と「目指せ満点！社会人までの道」

年度初めに「MI」でクラスの認知特性を知り、授業工夫や学習運営に活かします。「目指せ満点！社会人への道」は校外実習で実習先でつけていただく実習評価票とライフスキルトレーニングを参考に作成しました。生徒の自己評価と教員からの他者評価を共通の視点で行い、面談を通してそれぞれの課題や長所を共有し、個別教育計画に反映できるようにしています。

※参考：[MIってなあに？ | 読み方ガイド～MI「8つの知能」～ | 日能研読書ガイド \(nichinoken.co.jp\)](#)

### 【大和南分教室】「ABA 応用行動分析」の応用

行動観察によるアセスメントとして「ABA 応用行動分析」をベースにし、大和南分教室で作成したフレームへの記述方式のフォーマットに当該教員が入力することにより、生徒の課題情報の整理をしています。他学年の教員とも情報交換することにより、見えなかった課題や指導方法を見つけています。